



やまぶき

一関市立大原小学校 校報 No. 19
2025.9.26 文責：校長 松田

水かけ祭りの歴史(5年)

9月22日(月)、5年生は水かけ祭り保存会の顧問である金野さんを講師にお迎えし、水かけ祭りについて学びました。金野さんからは、祭りが江戸時代の「明暦の大火」を起源としていることや水をかける意味、水かけ太鼓の始まり等についてお話をいただきました。子供たちにとって特に印象的だったのは、学習発表会で披露予定の「獅山清流囃子」の名前の由来や金野さんによって作曲されたというお話と校歌の歌詞の意味についてでした。

この講話を通じて、児童たちは祭りに込められた深い想いや、地域文化の大切さを改めて感じる機会となりました。この学びを活かし、これから始まる水かけ太鼓の練習にも一層取り組んでいこうという気持ちが高まりました。



震災学習(5年)

9月24日(水)と9月26日(金)、5年生は震災学習の一環として、東日本大震災当時の経験談を伺う学びの機会を持ちました。

当時、陸前高田市で醤油を製造していた八木澤商店の社長さんからは、震災で工場が被災した後、現在は大原で新たな工場を構え奮闘しているお話を伺い、困難を乗り越えた強い意志に触れることができました。

また、地域でシイタケ栽培を営んでいる保護者の方からは、震災による農業への影響やその後の復興に向けた取り組みについてお話をいただきました。

子供たちは、それぞれの経験談を通じて震災の厳しさを学ぶとともに、困難に立ち向かう力について深く印象に残った様子でした。この学びをきっかけに、震災を自分事として考える姿勢が育まれることを期待しています。



デイサービスセンター訪問(1年)

9月24日(水)、1年生がデイサービスセンター大東を訪問し、高齢者の皆さんと素敵な交流の時間を過ごしました。

子供たちは大切に育てた朝顔の種と手紙をプレゼントし、一生懸命練習した校歌を元気いっぱい披露しました。高齢者の皆さんは、その心こもった贈り物をとても喜んでくださいました。

お礼として、高齢者の皆さんから素敵なペンダントをいただきました。このペンダントには、交流の喜びが込められているとのことでした。「これで100歳まで長生きできそう!」とおっしゃっていただき、子供たちの心にも温かさが広がりました。

交流を通じて、1年生は優しさや思いやりを学び、多くの笑顔が広がる訪問となりました。これからも地域の皆さんとの絆を深めながら成長してまいります。



家庭科ミシンボランティア

6年生の家庭科の授業でミシンを使った学習をしています。担任だけで授業時間内に学級全員の実技指導をすることは難しいことから、地域ボランティアの方に学習支援をしていただくことになりました。

9月24日(水)と25日(木)に地域ボランティアの方4名にご来校いただき、6年生のトートバッグ制作のサポートをしていただきました。子供たちは、ミシンの扱いで困った時に手助けしてもらえることで、安心してスムーズに制作を進めていました。



今、学校では～総合訪問に向けて～

来週の10月2日(木)に一関市教育委員会及び県南教育事務所の先生方が本校を訪問される予定です。この訪問では、学校での教育活動や教育課程の進行について確認いただき、さらに良い学校運営や授業の改善を目指すための貴重な意見交換の機会となります。

この訪問に向けて、本校の教職員は入念な準備を進めています。担任の先生は指導案の作成や授業内容の充実に注力し、子供たちにとってより良い学びの場となるよう努めています。養護の先生は保健室指導の見直しや資料の整理を丁寧に行い、事務の先生も帳簿の整理や確認を行っています。管理職も含め、全職員が連携し、学校全体の取り組みがしっかりと伝わるよう準備しています。

訪問日には、学校の魅力や取り組みをしっかりとお伝えできるよう、引き続き準備に励んで参ります。保護者の皆様にも、ご理解をいただけましたら幸いです。

